むかしむかし, 飯牟礼に大きな鬼が住んでいました。
大鬼が立ち上がると, 頭は雲まで届き, 大鬼のいびきは, カミナリのようにゴロゴロとひびきました。
大鬼は力持ちで, それがじまんでしたので, 村人たちは力仕事になると
「大鬼さん, お願いしますよ」といつも頼んでいました。
大鬼も, それを喜んで気前よく手伝っていました。

ある日のこと, いたずらっ気を起こした大鬼が,
「わがはいが, 飯牟礼山と桜島とどちらが重いか, もちあげてみせるぞい」と村人たちに言いました。
村人たちは, いくらなんでも無理だと思ったので
「むちゃなことをしなさんな」と止めましたが, 大鬼はよけい意地になって,
「持ち上げてみせるわい」と大張り切りです。

そこで村人たちは, 遠くの方にみんな集まって, 大鬼の力自慢を見物することになりました。
大鬼は, 大きな「山おこ」を持ってきて, 桜島と飯牟礼山をにないました。
大鬼は, 腰をかがめて一度, 二度大きく深呼吸をして, 「うんとこ, どっこいしょ」と
二つの大きな山を持ち上げにかかりました。ところがどうでしょう,
桜島は海の中に浮かんでいた山ですので, 持ち上がりましたが,
飯牟礼山の方はどうしても持ち上がりません。
「うーん, うーん」何度も力を入れて足をふんばりましたが, どうしても持ち上がりません。
大鬼は, 村人の前で恥をかいたと怒ってしまいました。
そうして「山おこ」で飯牟礼山を力いっぱい叩きました。
すると, 飯牟礼山は二つに割れて, 矢筈岳と諸正岳に分かれてしまいました。
その時に大鬼がふんばった足あとに水がたまり, 大きな池になりました。
村人たちは, この二つの池に上池, 下池という名前をつけました。

大鬼は, 今度こそと桜島と矢筈岳をにないました。ところが, 今度は桜島が重かったのです。
どうしても, つり合いがとれずにうまくになうことができません。
大鬼はまたプリプリ怒って, 今度は桜島の頭をボカーンと叩きました。その時
「ズズズズ, ドカーン」
というものすごい音がしました。鬼や村人が, 我に返って桜島の方を見ると,
それまでは静かな姿だった桜島が, 真っ赤な火柱と黒煙を噴き上げているのです。
この時以来, 桜島は, 活発な活火山へと変わったのだそうです。

山くらべが終わったあと, いつのまにか飯牟礼から大鬼はいなくなってしまいました。
村人の前で恥をかいたと思ったし, 桜島の爆発に驚いたからでしょう。
しかし, この山くらべで大鬼が歩き回ったあとは, 踏み固められてきれいになり,
田や畑になりました。飯牟礼地方ではいろんな作物がたくさんとれるようになり,
村人は, 大鬼に感謝しながら, 楽しく豊かに過ごしたそうです。

「伊集院の昔ばなし」　伊集院町国語部会編